

第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画

令和7年2月

瑞穂町教育委員会

はじめに

子どもの読書を取り巻く環境は、パソコンやスマートフォン、ゲームなどの電子メディアの普及により依然として厳しい状況にあります。また、小学生でも個人端末を持つようになり、1か月に1冊も本を読まない児童・生徒の割合も増えています。そのような中でも、保護者の皆さまの「わが子は読書好きに育てて欲しい」という思いは普遍的であり、連綿と続いています。

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人生をより深く生きる力を養うために極めて重要なものであり、その意義はこれからも変わることはありません。同時に、本に親しむことは主体的で対話的な深い学びを支え、子どもが自分自身で問題を解決したり、他者との対話を通じて自分なりの考えを持つことにもつながります。

子どもの読書環境を支えるためには、図書館が果たす役割は一層重要となりました。令和4年に瑞穂町図書館はリニューアルを果たし、より多くの子どもたちに快適かつ充実した読書環境を提供できるようになりました。この流れを促進するため、「第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画」を策定し、さらなる読書環境の充実と読書活動の推進を目指します。この計画では、子どもの成長段階に応じた様々な分野の本との出会いと、多様な読書の機会を提供するための環境整備に重点を置いています。地域全体で子どもの読書活動を支援し、次世代を担う子どもたちが心豊かで健やかに成長するための土壌をさらに固めていきます。

子どもたちが自己実現を図り、心の栄養を蓄える一助となることを期待し、各事業を推進します。

令和7年2月

瑞穂町教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画の策定	3
1 計画策定の背景	3
2 国の動き	3
3 東京都の動き	4
4 第三次計画の成果と課題	4
5 アンケートを踏まえた現状と課題	5
第2章 第四次計画の基本的な考え方	7
1 計画の目的	7
2 計画の基本方針	7
3 計画の目標	7
4 計画の期間と対象	7
5 SDGsとの関係	8
第3章 瑞穂町における子ども読書活動推進の取組	9
1 家庭	9
2 学校	9
3 図書館	10
4 関係する機関	12
第4章 計画の推進	14
1 推進体制	14
2 進捗状況の点検	14
おわりに	14
第四次計画一覧	15
資料	19
第三次瑞穂町子ども読書活動推進計画策定に伴う現況調査	20
子どもの読書活動調査	34
瑞穂町の図書館・地域図書室	40

第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画

第 1 章 第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画の策定

1 計画策定の背景

「子どもの読書活動の推進に関する法律」第二条では、「子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」と読書活動が子どもの成長過程において有意義なものであることが記されています。この時期に良い本と出会うことは、人間性を身につけ、想像力を豊かにするとともに、生涯においてひとつの財産になります。

瑞穂町（以下「町」という。）では、平成 22 年 3 月に「瑞穂町子ども読書活動推進計画」（以下「第一次計画」という。）、平成 27 年 3 月に「第二次瑞穂町子ども読書活動推進計画」（以下「第二次計画」という。）を策定しました。その後、令和 2 年 2 月に「第三次瑞穂町子ども読書活動推進計画」（以下「第三次計画」という。）を策定し、①子どもの読書環境の整備・充実、②子ども読書活動に関する理解の促進、③家庭・学校・地域の連携、の 3 項目を目標に取組を推進してきました。

この間、町は令和 3 年 3 月に第 2 次瑞穂町生涯学習推進計画を策定し、「生涯学習に寄与する図書館の利活用」を柱の一つに、生涯学習社会の実現に向けた取組を推進してきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の蔓延は子どもの読書環境に大きな影響を与えました。しかし、令和 4 年 3 月に瑞穂町図書館の改修事業が完了し、子ども一人ひとりが自分の居場所と感じられ、本に親しめる空間が整備されたことから、読書環境の充実が図られました。

今後も子ども読書活動の推進を図るため、社会情勢や子どもの読書活動を取り巻く状況の変化等を踏まえ、すべての子どもが等しく読書をすることができるよう、多様なニーズに配慮していくことが大切です。

2 国の動き

平成 11 年 8 月、子どもたちの読書活動について国をあげて支援するため、国会において平成 12 年を「子ども読書年」とすることを決議し、さらに平成 12 年 5 月に国立国会図書館の支部図書館として「国際子ども図書館」を開館しました。

また、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、施策を総合的かつ計画的に推進するために、「子どもの読書活動の推進に関する法律」が平成 13 年 12 月に公布・施行され、これにより国と地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する計画を策定・公表することが定められました。

その後、国では、平成 14 年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」（第一次）を策定し、平成 20 年 3 月に第二次基本計画、平成 25 年 5 月に第三次基

本計画、平成30年4月に第四次基本計画、令和5年3月に第五次基本計画を策定しました。

この間、平成26年6月に学校図書館法の一部を改正する法律が成立し、専ら学校図書館の職務に従事する職員が学校司書として位置付けられました。

さらに、学習指導要領等が改訂・告示され、小学校、中学校、高等学校において、言語能力の育成を図るために、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要しつつ各教科等の特質に応じて、言語活動を充実することを規定しています。加えて、学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童・生徒の自主的、自発的な読書活動を充実することが規定されました。また、幼稚園教育要領では、幼児が絵本や物語に親しみ、それらをとおして想像したり、表現したりすることを楽しむこと等が規定されました。

そのほか、令和元年6月に「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）が施行されました。これにより、すべての人が読書を楽しめる社会の実現を目指しています。

3 東京都の動き

東京都は平成15年3月に「東京都子ども読書活動推進計画」（第一次）、平成21年3月に第二次計画、平成27年2月に第三次計画、令和3年3月に四次計画を策定しました。

また、令和6年3月には「東京都教育ビジョン（第5次）」を策定し、その中でも不読率の更なる改善、読書の質の向上及び読書環境の整備に向けた取組を行うことによる子どもの読書活動の推進を展開することとしています。

さらに、第四次計画と障害者・障害児施策推進計画とを併せて読書バリアフリー法第8条に基づく視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する計画（読書バリアフリー計画）として位置づけ、すべての人が読書を楽しめる社会の実現に向けて、取組を進めています。

4 第三次計画の成果と課題

町では、第一次計画、第二次計画で子どもの読書環境の整備・充実を図るための取組を行ってきました。第三次計画でもその目的は継続され、次のような新たな取組が始まりました。

平成31年4月から乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」を配布しています。本を通じて親子のコミュニケーションを育み、親子で本に親しむきっかけになっています。保健センターで実施している3・4か月検診時のブックスタート事業の際に配布をしていますが、その効果が表れてくるのはこれからです。

平成30年度から続けている瑞穂町図書館を使った調べる学習コンクールは、回数を重ねるたびに入賞作品のレベルは向上し、子どもたちの「調べる力」を育むとともに、主体的に学ぼうとする意欲の形成が図られています。

令和4年3月に瑞穂町図書館の大規模改修事業が完了し、乳幼児期から高校生までの子どもが気軽に本に親しめる場所ができました。今後も図書館に行きたくなるようなイベントの企画や手に取ってみたいくなるような本の収集、探しやすい本の配架を研究し、子どもが本を身近なものと感じられる環境を維持していく必要があります。

5 アンケートを踏まえた現状と課題

第三次計画の終了にあたり、この5か年の子ども読書活動推進に関する取組状況とその成果について評価を行い、図書館の利用状況や第三次計画の各項目の進捗状況を調査するため、令和6年1月から6月にかけて、各関係機関及び児童・生徒へアンケートを実施しました。（資料参照）

（1）小学校・中学校

すべての小・中学校で読書活動の推進が図られており、司書教諭や学校図書館司書を中心に、様々な取組が実施されています。小学校では読み聞かせや本の紹介、読書記録が全校で行われているほか、ブックトークやビブリオバトルなど、各校で工夫を凝らした事業が展開されています。読書旬間には児童同士が本を紹介しあうことで、子ども目線の読書啓発も実施されています。また、中学校では図書委員が自主的に企画やイベントを実施し、生徒同士での啓発が継続されています。

選書については、授業に必要な図書を揃えることはもちろん、児童・生徒のリクエストに応えるため、コミュニケーションが活発に行われています。

また、図書館を使った調べる学習コンクールへの参加や授業、学校行事に伴い、団体貸出冊数も年々増加しています。特に令和5年度に図書館から各学校に本を配送するサービスを開始したことにより、授業への図書の活用機会が増えました。

一方、急激に進んだICT化により、子どもたち自身が調べ物をするときの図書の利用頻度は減っています。インターネットから得られる情報だけでなく、図書等を使って複数の情報を収集し、正しい情報を取捨選択する力を育むことが必要です。そのためにも、図書館を使った調べる学習コンクールを継続していくことが重要です。

新しくなった図書館への期待は大きく、今後も学校と連携して読書活動の推進を図る必要があります。

（2）幼稚園・保育園

全ての施設で読書活動の推進が図られており、読み聞かせや本の紹介、本の貸出などの取組が行われています。また、町の読み聞かせ推進事業を利用した蔵書の充実や回覧により、様々な絵本に触れる機会が作られています。

一方、園の蔵書が充実することに伴い、団体貸出やリサイクル図書の活用は減少傾向にあります。大型絵本や紙芝居など、園で利用しやすい資料の充実が必要です。

(3) 児童館・学童保育クラブ

放課後の子どもたちの居場所としての役割を担う児童館や学童保育クラブでも、読み聞かせ事業は活発に行われています。地域図書室の近くにある施設では団体貸出も行われていますが、利用が少ない施設もあります。リサイクル図書の利活用も多くないため、積極的な働きかけが課題です。

(4) 保健センター

ブックスタート事業が推進され、リサイクル図書も利用されています。ブックスタート事業として絵本と一緒に配布されている読書手帳「本の思い出」のデザインを「みずほまる」を使ったものに変更し、より親しみやすい印象としました。今後も事業を継続し、乳幼児期の読書活動の推進を図ることが必要です。

(5) 子ども家庭支援センターひばり

ボランティアと連携した乳幼児向けの読み聞かせが活発に行われています。また、図書館のリサイクル図書の配布も好評だったため、今後も継続が必要です。

(6) 地域

ボランティアセンターや子育てサークルで読書活動の推進が図られています。ボランティアセンターでは情報提供や読み聞かせに係るコーディネーターとしての役割も果たしています。また、子育てサークルでは遊びの中に読み聞かせを取り入れ、本に親しむ環境が整備されています。

(7) 児童・生徒

本を読むことが好きな子どもは、小学生では微減し、中学生では横ばいとなっています。読み聞かせが好きな子どもは微増しているものの、家で本をよく読む子どもの割合は減少しているため、継続的な読書習慣の形成が課題です。

一方、図書館を利用している子どもの割合は小・中学生ともに10ポイント程度増加し、新しくなった図書館が小・中学生にとって行きたくなる場所になっていることがわかります。

第2章 第四次計画の基本的な考え方

1 計画の目的

この計画は、子どもが自主的に読書活動を行うことができるように、読書環境の整備・充実を図るため、子どもの読書活動に対する理解を促進し、家庭・学校・地域・その他の関係する機関が果たす役割を示すとともに、町が実践していく施策の方向性を明らかにしていくことを目的とします。

2 計画の基本方針

この計画は、法律に基づき国が策定した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」及び「東京都子供読書活動推進計画」をもとに、瑞穂町の子どもの読書活動の現状を踏まえ、子どもの読書環境や関連する子ども読書事業等の整備・充実のために策定します。また、瑞穂町長期総合計画、瑞穂町生涯学習推進計画との整合性も図っていきます。

3 計画の目標

(1) 子どもの読書環境の整備・充実

0歳から18歳までの子どもの読書活動を推進し、より多くの子どもたちが自発的に本を手にし、読書に親しむことができるように、また、子どもの発育段階によって、人間形成に必要な本に出合えるように、様々な場所において子どもの読書環境のさらなる整備・充実を目指します。

(2) 子ども読書活動に関する理解の促進

「子どもの読書」が、子どもの知的な発達・興味・関心等への影響が大きいものとして、保護者や教員など子どもを取り巻く大人の理解と関心を深めるために関係機関と連携し、普及・啓発事業を積極的に行っていきます。

(3) 家庭・学校・地域の連携

図書館を中心に、学校・保育園・幼稚園などの関係機関をはじめ、行政の関係部局と連携し、読書ボランティアなどの地域住民や保護者が相互協力できる体制を整備し、地域社会全体の取組として子どもの読書活動を推進していきます。

4 計画の期間と対象

(1) 計画の期間

令和7年度から11年度までの5年間

(2) 計画の対象

- ① おおむね 18 歳以下の子ども及びその家族
- ② 子どもの読書活動に携わる町内の関係機関・施設及び地域住民

5 SDGs との関係

2015 年に国連サミットにおいて採択された SDGs は、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、わが国では経済、社会および環境をめぐる広範な課題に対して統合的に取り組むこととしています。

第 5 次瑞穂町長期総合計画において、各施策と SDGs の各目標との関係性を明確化しています。そのため、本計画においてもそれらを具体的な取組の施策に反映させて、計画の推進に取り組みます。



出典：国際連合広報センター

上記の目標のうち、本計画と関係のある主な目標は、次のとおりです。



第3章 瑞穂町における子ども読書活動推進の取組

1 家庭

(1) 家庭の役割

家庭においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第6条で、「父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする」と規定されており、子どもと最も身近に接する大人として保護者が子どもの読書に積極的に係わっていくことが記されています。

このため、家庭においては、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館に出向いたりするなど、工夫して子どもが読書に親しむきっかけをつくることが重要です。

これらの役割を果たす取組として次のようなことが、期待されます。

(2) 家庭の取組

- ① 乳幼児期の子どもたちに進んで絵本・紙芝居の読み聞かせをしたり、童謡を歌ったりするなど、読書への興味をもたせます。
- ② 保護者自身が読書に親しむことにより、子どもたちに読書への関心を引き出し、家庭内で積極的に共通の読書の時間を作る工夫をするなど、読書環境を整えます。
- ③ 子どもが興味・関心をもつような本を家庭の蔵書として置きます。
- ④ 子どもと一緒に図書館や書店などを利用し、本のある空間に親しみを持たせます。
- ⑤ 図書館・児童館・子ども家庭支援センターで行なわれている「おはなしの会」などに積極的に参加します。

2 学校

(1) 学校の役割

学校においては、各学年の段階に応じて、子どもが読書に親しむ習慣を形成することが大切です。学校図書室を計画的に利用し、子どもの主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させることが必要です。

子どもが読書を通して自分の考え方を深め、新しい世界を知る手助けになるような指導をする必要があります。また、授業に図書を取り入れ、朝の学習時間を利用した「読み聞かせ」などを契機に、読書の楽しさを子どもたちに植え付けることも大切になっています。そのためには、子どもの読書活動の環境整備の一環として、各小・中学校の近くに町の図書館又は地域図書室が整備されていることが重要です。

学校の役割を果たす取組として、次のようなことが期待されます。

(2) 学校の取組

現在、小・中学校に司書教諭や学校図書館司書が配置され、子どもたちの読書活動の一翼を担っています。図書館とも連携しながら、子どもの読書活動を推進するために、大きな役割を担う学校には、環境整備、人的整備、指導の工夫などの視点から次のことが求められます。

- ① 児童・生徒の成長・発達と興味に応じた蔵書の充実を図ります。
- ② 司書教諭と学校図書館司書を中心に、各担任と連携を図り、学校の特性を生かした活動を推進していきます。
- ③ 児童・生徒への推薦図書リストの配布や、教師や児童・生徒によるおすすめ本を紹介する機会を作り、読書の楽しさを啓発します。
- ④ 調べ学習に対応するために幅広い資料を収集します。また、インターネットを含めた情報を収集し、活用する力を育てます。
- ⑤ 本を読むことに支援が必要な児童・生徒の特性、生活経験等を考慮した適切な図書を選定するとともに、ボランティアや教諭による「読み聞かせ」など工夫した読書活動を充実させます。
- ⑥ 読書計画を教育課程に位置づけ、意図的・計画的に読書の時間を設け、子どもが読書の楽しさや良さを味わえるような指導の工夫や取組を充実させ、読書の領域を広げていきます。
- ⑦ 子どもたちに読書習慣を身に付けさせるため、全校一斉の読書活動（朝読書・読書週間・読書月間など）を設定するなど、読書時間を確保します。また、読書の記録簿の活用を推進していきます。
- ⑧ 各教科・特別活動・総合的な学習の時間などにおいて、学校図書館を積極的・計画的に利用し、子どもの主体的・意欲的な読書活動や学習活動を充実させます。また、読み聞かせ等のボランティア派遣を積極的にすすめます。

3 図書館

(1) 図書館の役割

図書館は読書活動と資料に関する専門的機関として、子どもの読書活動の事業を積極的に展開する必要があります。また、地域の中で子どもたちが気軽に立ち寄り、読書や調べもの、疑問の解決ができるように、子どもの生活に根ざした魅力的な場所を目指します。子どもと本のかげがえのない出会いを応援するため、子どもの読書週間や秋の読書週間に良書案内のポスターなどで本を紹介するとともに、選書に力を注ぎ、子どもの読書活動を促進する効果的な本を揃えて、読書を楽しむきっかけをつかむことができる事業を実施します。

また、各小学校区に整備されている図書館、地域図書室と学校や子どもの読書に関わるすべての団体との連携を充実していきます。

子ども時代は、読書活動を通して、本に対する興味を養い、読書習慣を身に付ける大切な時期です。図書館では、子どもの読書活動を推進するため読書環境の整備を始め、次のような取組を実施し、支援していきます。

(2) 図書館の取組

- ① 子ども個人の興味や関心・発達段階に合わせた選書を行い、蔵書の充実を図ります。
- ② ティーンズ（おおむね小学校高学年から高校生）向けの蔵書を積極的に収集し、児童書から一般書への移行を支援します。
- ③ 図書館及び地域図書室における「おはなしの会」の内容を充実させ、ボランティアと協働してより多くの方に参加してもらえるような事業を目指します。
- ④ 子どもや子どもの読書に係わる大人を対象とした図書館講座を企画します。
- ⑤ 子どもの視点を取り入れた事業を企画します。
- ⑥ 調べ学習について、資料の充実とともに、職員が調べ学習の方法を研究し、より多くの子どもたちの疑問が解消できるように努めます。
- ⑦ 図書館を使った調べる学習コンクール（地域コンクール）を継続し、興味を持ったことに対し、自ら調べ、まとめ、発表することを通して、課題解決力を育成します。
- ⑧ 春の子どもの読書週間と秋の読書週間に、乳幼児から高校生向けの良書案内を作成、配布します。
- ⑨ 子どもが本と出会う機会を増やすため、企画展示を充実します。
- ⑩ 読書への意欲を高め、読書に親しむ方策として、読書手帳を活用します。
- ⑪ 乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」の効果的な活用方法を検討します。
- ⑫ 図書館の利用をさらに促進するため、子ども・保護者に対する広報及び相談活動を充実していきます。
- ⑬ 子ども向けホームページの充実に向けて研究します。
- ⑭ 子どもが気軽に本に親しめるような場を提供します。
- ⑮ 地域の読書活動に関わる情報拠点としての機能を充実していきます。
- ⑯ 学校における「読み聞かせ」の支援や学校への団体貸出、学校への本の配送など、学校との連携を継続します。
- ⑰ 生活科見学や職場体験などを積極的に受け入れ、子どもが図書館を見学、体験する機会をさらに拡充していきます。
- ⑱ 保健センターにおける育児相談時に実施している「読み聞かせ」では、子どもたちの発達に応じた選書に力を入れます。また、保護者が子育てを楽しめるような絵本を選書・紹介し、0歳児から図書館を利用でき、絵本が親子のコミュニケーションのツールになることを啓発します。
- ⑲ 図書館のリサイクル図書の再活用は、保育園、幼稚園、小・中学校等を優先して行います。

- ⑳ 本を読むことに支援が必要な子どもに対するサービスとして、点字付き絵本やLLブックをはじめとしたアクセシブルな資料を収集します。
- ㉑ 外国語を母語とする子どもの読書活動を支援するため、英語資料を中心に、地域の実情に合わせた外国語資料を収集します。
- ㉒ デジタル化した地域資料の効果的な活用手法を検討し、地域を愛する機運の醸成に繋がります。

4 関係する機関

(1) 幼稚園・保育園の役割と取組

幼稚園・保育園においては、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づき、乳幼児が絵本や物語に親しむ活動を行っています。

このため、発達段階に適した（適時性）絵本が十分に揃っていることが重要になってきます。

本と子どもを結び付けるために、次のような取組が期待されます。

- ① 保護者に対して読書への理解を深めるため、「園便り」などを通して読み聞かせの啓発に努めます。
- ② 町の読み聞かせ推進事業や図書館のリサイクル図書を活用し、読書環境の整備に努めます。
- ③ 図書館からの「幼児向け良書案内」を活用するなど、図書館と連携を充実します。

(2) 児童館・学童保育クラブの役割と取組

児童館は0歳から18歳までの子どもたちが様々な経験をするために集う場所です。職員やスタッフ、ボランティアによる読み聞かせが日常的に行なわれています。

また、図書室もあり、子どもたちが読書に親しむ場になっています。幼児向け事業では、幼児と保護者を対象におはなしを楽しむ事業を行っています。

児童館においては次のような取組が期待されます。

- ① 幼児と保護者向けの事業を引き続き行う中で、読み聞かせを充実します。
- ② 図書館のリサイクル図書の有効活用を積極的に行い、読書環境の整備に努めます。

(3) 保健センターの役割と取組

保健センターでは、子どもとその保護者に対して子どもの心身の健やかな発達を促し、より良い安定した親子関係を築けるように、母子保健に関する事業を実施する中で、絵本に接する機会を提供し、次のような取組を推進していきます。

- ① 乳児（3～4か月）健診時に来所したすべての乳児を対象に絵本を配布し、読み聞かせのデモンストレーションを実施するなど、ブックスタート事業を推進します。同時に、乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」を配布します。

- ② 図書館のリサイクル図書を活用し本を備えます。また、ブックスタートのパンフレットを配布したり、健康・育児・栄養相談時に図書館職員が読み聞かせを行うなどの事業を実施します。

(4) 子ども家庭支援センターひばりの役割と取組

子ども家庭支援センターひばりは、子育てを総合的に支援する拠点として、乳幼児から18歳までの子どもに関する相談業務や、保護者や子ども同士の交流を行っています。その中で、保護者交流事業での読み聞かせや、ボランティアによるお話し会を行っています。今後、次のような取組が期待されます。

- ① 保護者交流事業やボランティアによる読み聞かせ事業を実施します。
- ② 図書館のリサイクル図書を活用し、図書コーナーを充実させます。

(5) ボランティアセンターみずほの役割と取組

ボランティアセンターみずほには、多くの団体が登録され、積極的に活動しています。これらの活動を有効に活用していくために、次のことが期待されます。

- ① 地域の育児サークルなどが行っている「読み聞かせ」などの活動への参加を促進します。
- ② 育児サークルやその活動内容の情報を提供します。

(6) 地域における子育てサークルの役割と取組

子育てサークルは、子ども（特に幼稚園・保育園入園前）と保護者に対して、季節行事や体操、工作、遠足などの子どもの成長を見守る事業を行っています。その中でも特にお話のもつ楽しさを知って欲しいと、絵本の読み聞かせを中心に行っているサークルもあります。今後、次のような取組が期待されます。

- ① 子どもたちの興味をお話に向けさせるように読み聞かせを積極的に取り入れた活動をします。
- ② 図書館から読み聞かせに適した本等の団体貸出を利用します。

第4章 計画の推進

1 推進体制

この計画を推進するには、家庭、学校、地域が一体となった取組を行うことが重要です。図書館が中心となって、関係機関、団体等との連携・協力関係を更に強化し、具体的な方策を推進する体制の整備に努めていきます。

2 進捗状況の点検

この計画の推進にあたり、図書館協議会委員の意見を聞き進捗状況を点検するとともに、その結果を踏まえ関係する機関と調整していきます。

そのために、町内の小・中学校における児童・生徒の読書活動の取組状況について調査します。

おわりに

未来を担う子どもたちが心豊かに成長するためには、読書環境の整備を図ることが重要です。

また、子どもの読書活動は、子どもだけの読書活動を推進することにとどまることなく、全ての人の読書活動を推進します。

1冊の本が会話やコミュニケーションのツールとして役立ち、読書活動の更なる推進が図られるとともに、成果が自己実現や地域に反映されるよう、各事業を実施していきます。

第四次計画一覧

1 学校における読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
資料の収集	児童・生徒の成長・発達と興味に応じた蔵書の充実を図ります。	継続
普及啓発	司書教諭と学校図書館司書を中心に、各担任と連携を図り、学校の特性を生かした活動を推進していきます。	継続
普及啓発	児童・生徒への推薦図書リストの配布や、教師や子どもによるおすすめ本を紹介する機会を作り、読書の楽しさを啓発します。	変更
調べ学習	調べ学習に対応するために幅広い資料を収集します。また、インターネットを含めた情報を収集し、活用する力を育てます。	新規
読書支援	本を読むことに支援が必要な児童・生徒の特性、生活経験等を考慮した適切な図書を選定するとともに、ボランティアや教諭による「読み聞かせ」など工夫した読書活動を充実させます。	変更
読書計画	読書計画を教育課程に位置づけ、意図的・計画的に読書の時間を設け、子どもが読書の楽しさや良さを味わえるような指導の工夫や取組みを充実させ、読書の領域を広げていきます。	継続
読書活動	子どもたちに読書習慣を身に付けさせるため、全校一斉の読書活動（朝読書・読書週間・読書月間など）を設定するなど、読書時間を確保します。 また、読書の記録簿の活用を推進していきます。	継続
読書活動	各教科・特別活動・総合的な学習の時間などにおいて、学校図書館を積極的・計画的に利用し、子どもの主体的・意欲的な読書活動や学習活動を充実させます。また、読み聞かせ等のボランティア派遣を積極的にすすめます。	継続

2 図書館における読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
蔵書の充実	子ども個人の興味や関心・発達段階に合わせた選書を行い、蔵書の充実を図ります。	継続
蔵書の充実	ティーンズ（おおむね小学校高学年から高校生）向けの蔵書を積極的に収集し、児童書から一般書への移行を支援します。	変更

読み聞かせ	図書館及び地域図書室における「おはなしの会」の内容を充実させ、ボランティアと協働してより多くの方に参加してもらえるような事業を目指します。	変更
図書館事業	子どもや子どもの読書に係わる大人を対象とした図書館講座を企画します。	変更
図書館事業	子どもの視点を取り入れた事業を企画します。	新規
レファレンス	調べ学習について、資料の充実とともに、職員が調べ学習の方法を研究し、より多くの子どもたちの疑問が解消できるように努めます。	継続
図書館を使った調べる学習コンクール	図書館を使った調べる学習コンクールを継続し、興味を持ったことに対し、自ら調べ、まとめ、発表することを通して、課題解決力を育成します。	継続
良書案内	春の子ども読書週間と秋の読書週間に、乳幼児から高校生向けの良書案内を作成、配布します。	変更
普及啓発	子どもが本と出会う機会を増やすため、企画展示を充実します。	変更
普及啓発	読書への意欲を高め、読書に親しめる方策として、読書手帳を活用します。	継続
普及啓発	乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」の効果的な活用方法を検討します。	継続
普及啓発	図書館の利用をさらに促進するため、子ども・保護者に対する広報及び相談活動を充実していきます。	継続
普及啓発	子ども向けホームページの充実に向けて研究します。	変更
環境整備	子どもが気軽に本に親しめるような場を提供します。	変更
環境整備	地域の読書活動に関わる情報拠点としての機能を充実していきます。	継続
学校との連携	学校における「読み聞かせ」の支援や学校への団体貸出、学校への本の配送など、など、学校との連携を充実させます。	継続
学校との連携	生活科見学や職場体験などを積極的に受け入れ、子どもが図書館を見学、体験する機会をさらに拡充していきます。	継続
他機関との連携	保健センターにおける育児相談時に実施している就学前の子どもを対象とした「読み聞かせ」では、子どもたちの発達に応じた選書に力を入れます。 また、保護者が子育てを楽しめるような絵本を選書・紹介し、0歳児から図書館を利用でき、絵本が親子のコミュニケーションのツールになることを啓発します。	継続

他機関との連携	図書館のリサイクル図書の再活用は、保育園、幼稚園、小・中学校等を優先して行います。	継続
読書支援	本を読むことに支援が必要な子どもに対するサービスとして、点字付き絵本やLLブックをはじめとしたアクセシブルな資料を収集します。	変更
読書支援	外国語を母語とする子どもの読書活動を支援するため、英語資料を中心に、地域の実情に合わせた外国語資料を収集します。	継続
地域資料のデジタル化	デジタル化した地域資料の効果的な活用手法を検討し、地域を愛する機運の醸成に繋がります。	継続

3 関係する機関

(1) 幼稚園・保育園における読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
普及啓発	保護者に対して読書への理解を深めるため、「園便り」などを通して読み聞かせの啓発に努めます。	継続
環境整備	町の読み聞かせ推進事業や図書館のリサイクル図書を活用し、読書環境の整備に努めます。	変更
図書館との連携	図書館からの「幼児向け良書案内」を活用するなど、図書館と連携を充実していきます。	継続

(2) 児童館・学童保育クラブにおける読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
読み聞かせ	幼児と保護者向けの事業を引き続き行う中で、読み聞かせを充実させます。	継続
環境整備	図書館のリサイクル図書の有効活用を積極的に行い、読書環境の整備に努めます。	継続

(3) 保健センターにおける読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
ブックスタート	乳児（3～4 か月）健診時に来所したすべての乳児を対象に絵本を配布し、読み聞かせのデモンストレーションを実施するなど、ブックスタート事業を推進します。同時に、乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」を配布します。	変更

図書館との連携	図書館のリサイクル図書を活用し本を備えます。また、ブックスタートのパンフレットを配布したり、健康・育児・栄養相談時に、図書館職員が読み聞かせを行うなどの事業を実施していきます。	継続
---------	--	----

(4) 子ども家庭支援センターひばりにおける読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
読み聞かせ	指導員やボランティアによる読み聞かせ事業を実施していきます。	継続
図書コーナー	図書館のリサイクル図書を活用し、図書コーナーを充実させます。	継続

(5) ボランティアセンターみずほにおける読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
普及啓発	地域の育児サークルなどが行っている「読み聞かせ」などの活動への参加を促進します。	継続
情報提供	育児サークルやその活動内容の情報を提供します。	継続

(6) 地域の子育てサークルにおける読書活動の推進

事業名	取組内容	方向性
読み聞かせ	子どもたちの興味をお話に向けさせるように読み聞かせを積極的に取り入れた活動をします。	継続
団体貸出	図書館から読み聞かせに適した本等の団体貸出を利用します。	継続

資料

第三次瑞穂町子ども読書活動推進計画策定に伴う現況調査

調査期間 令和6年1月5日（金）～令和6年1月31日（水）

対象 小学校（5校）、中学校（2校）、高校（1校）、幼稚園・保育園（12園）、あすなる児童館、学童保育クラブ、保健センター、子ども家庭支援センターひばり、ボランティアセンターみずほ、子育てサークル（5団体） 合計30団体

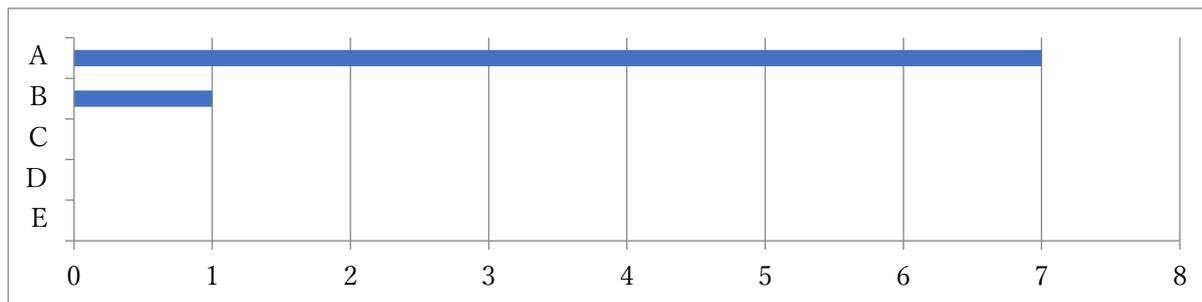
達成度合の評価は、下記の表により記号でつけています。

A	B	C	D	E
よくできた	できた	ふつう	あまりできなかった	できなかった

1 学校（8校）

① 児童・生徒の成長・発達と興味に応じた蔵書の充実を図ります。

評価 A=7 B=1

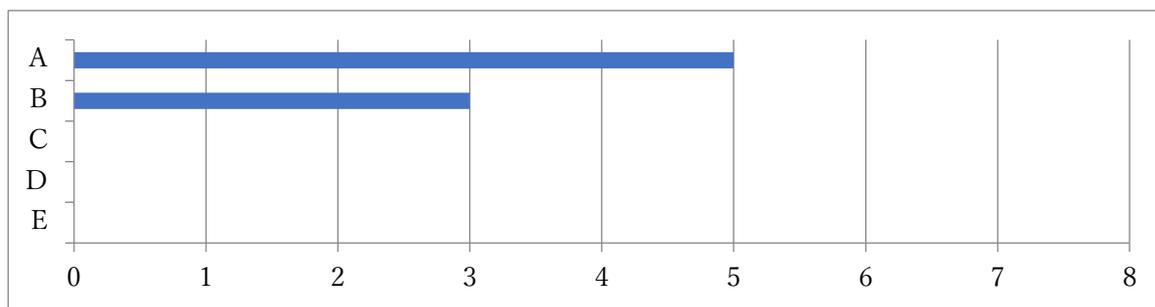


具体的な取組内容

- ・ 児童の読書傾向や好みを考えつつ選書しています。
- ・ 特別支援学級の児童用に、写真集に近い図鑑などを購入しています。
- ・ 教師や児童、生徒の希望、教科書に沿った調べる学習等、授業で活用できる内容に重点をおいた蔵書作りをしています。
- ・ 本のランキングや児童からのリクエストカードを活用しています。
- ・ 司書教諭と学校図書館司書とで、学習や読書に必要な本を選定しています。
- ・ 低、中、高学年に適した本が偏らないように配慮しながら購入しています。
- ・ 新聞や書店、雑誌、WEB等の書評、他校の情報も参考にしています。

② 司書教諭と学校図書館司書を中心に、各担任と連携を図り、学校の特性を生かした活動を推進していきます。

評価 A=5 B=3

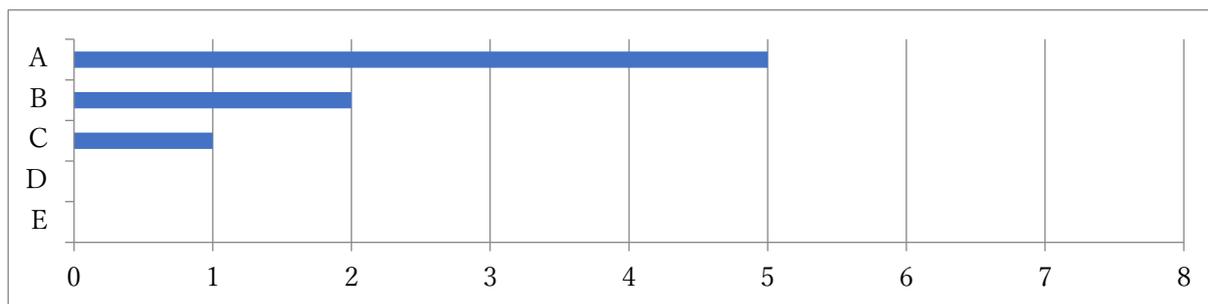


具体的な取組内容

- ・ 本の紹介・ブックトーク・読み聞かせで、授業内容に関連するものを紹介しています。
- ・ 百科事典の引き方、図鑑の索引の使い方など、図書室の資料を使いながら解説・実践しています。
- ・ 各学級に学級文庫と教科書に紹介されている本を設置しています。
- ・ 担任と学校図書館司書とで連携を図り、並行読書に取り組みました。
- ・ ICTの活用が進む一方で、各学年、担任の紙資料も利用したいと多くのリクエストがあります。
- ・ 長年に渡り収集した新聞記事が学習で活用され役立っています。
- ・ 読書旬間に図書室ビンゴを取り入れています。
- ・ 図書委員会も含めた読書活動（貸出強化期間、イベントの実施等）に取り組んでいます。

- ③ 児童・生徒への推薦図書リストの配布や、教師や子どもによるおすすめ本を紹介する機会を作り、読書の楽しさを啓発します。その手法として、ビブリオバトル等の導入を検討します。

評価 A=5 B=2 C=1



具体的な取組内容

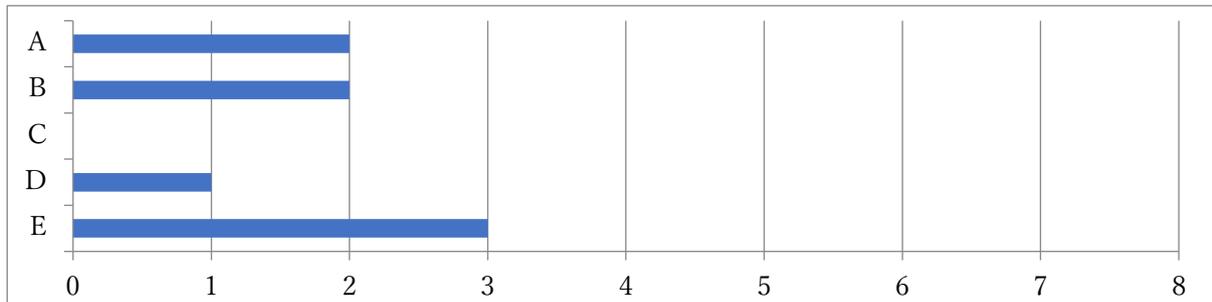
- ・ 毎月「図書だより」を発行し、お薦めの本や新着本を紹介しています。
- ・ 読書週間の時期に、教員からのお薦めの本をポップとともに掲載しています。
- ・ お薦めの資料リストを配布し、紹介した本のコーナーを作成しています。
- ・ 読書週間に児童が本の紹介カードを書き、表彰と合わせて掲示してお互いの好きな本を紹介しあえる機会を設けています。
- ・ ビブリオバトルを実施しました。
- ・ 年間を通して推薦図書の読破や記録カードの記入を呼びかけています。1クラスです

が読書記録のファイルをICT担当者に開発して頂き、児童のタブレットに導入し、担任が管理するシステムが構築できました。

- ・ 出版社製作の冊子リストの配布、委員会でのPOP、ポスター作成、授業での紹介、新聞の作成に取り組んでいます。
- ・ 図書委員を中心に薦めの本の紹介を廊下に掲示しています。

④ 保護者・ボランティア・図書館の協力を得て、「読み聞かせ」等を行います。

評価 A=2 B=2 D=1 E=3

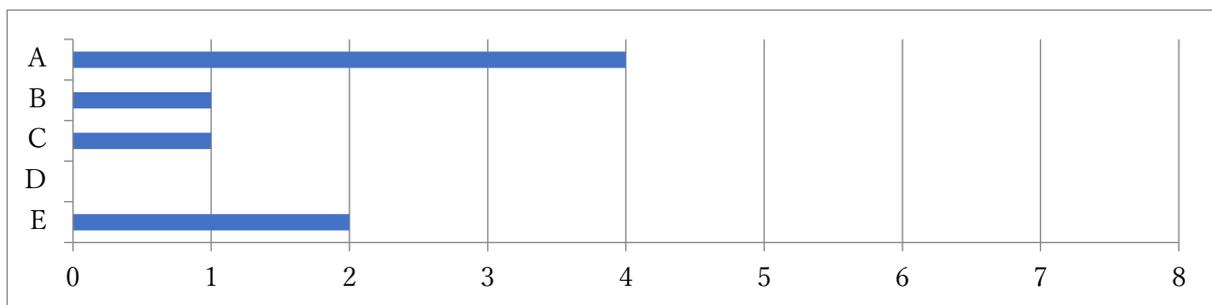


具体的な取組内容

- ・ ボランティア団体の協力を得て、朝・昼の読み聞かせを実施しています。
- ・ 朗読ボランティアによる朗読放送を実施しています。

⑤ 障がいのある児童・生徒の障がいの特性、生活経験等を考慮した適切な図書を選定するとともに、ボランティアや教諭による「読み聞かせ」など工夫した読書活動を充実させます。

評価 A=4 B=1 C=1 E=2



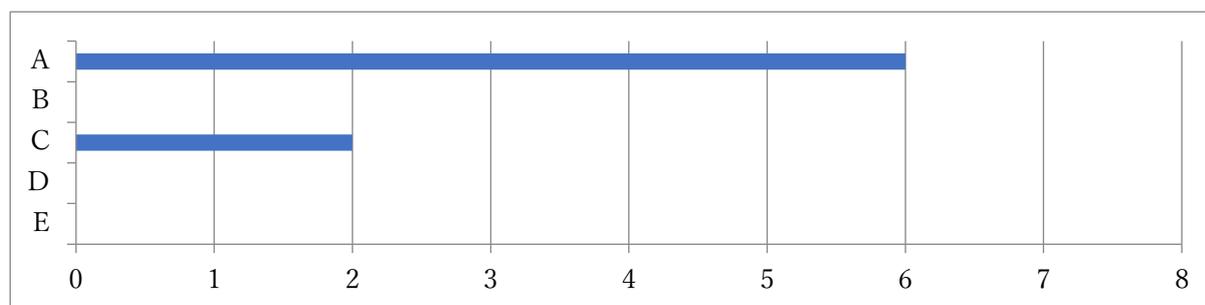
具体的な取組内容

- ・ 特別支援学級の児童は、教室にある図書資料と図書室の資料の両方を利用することができます。
- ・ ペープサート・パネルシアター・紙芝居・エプロンシアター・言葉遊びなどを導入しています。
- ・ 読み聞かせの前に担任や担当に声をかけ、必要な配慮を確認しています。
- ・ 特別支援学級に「わいわい文庫マルチメディアデージー図書」を提供し、その活用術の冊子も担任の先生に読んでいただいています。
- ・ 図書費の一部を通級学級用に配分しています。

- ・ 特別支援学級担当者の希望を確認しています。
- ・ 心の問題に関する本を保健室にも設置しています。

⑥ 読書計画を教育課程に位置づけ、意図的・計画的に読書の時間を設け、子どもが読書の楽しさや良さを味わえるような指導の工夫や取組を充実させ、読書の領域を広げていきます。

評価 A=6 C=2

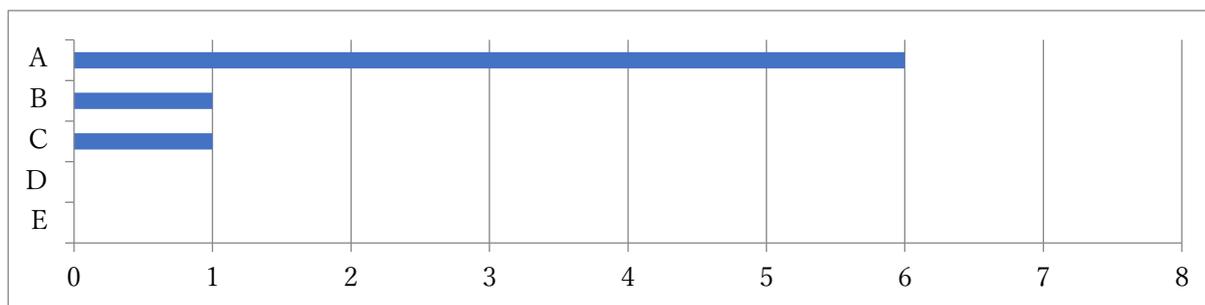


具体的な取組内容

- ・ 読書通帳を全員に配布しています。
- ・ 国語科を中心とする文学的作品の並行読書や調べ学習等を行うことで、読書の幅が広がってきています。
- ・ 年間貸出冊数の目標を設定しています。
- ・ 図書室利用の際には、国語の単元を意識した本の紹介をする一方で、児童が好きなジャンルの本選びも尊重しています。
- ・ 低・中学年は貸出し時、担任がアドバイスしています。
- ・ 紹介カードの作成、図書室ビンゴ、読書郵便、本の帯づくり等に取り組みました。
- ・ 読書旬間に図書委員による読み聞かせを実施しています。
- ・ 読書の時間を意図的、計画的に設けて、図書時間に読み聞かせを行うなど、読書への楽しさが感じられるようにしています。
- ・ 進路指導部の年間計画及び委員会活動での図書だよりやイベント等で広げていく取組を行っています。

⑦ 子どもたちに読書習慣を身に付けさせるため、全校一斉の読書活動（朝読書・読書週間・読書月間など）を設定するなど、読書時間を確保します。また、読書の記録簿の活用を推進していきます。

評価 A=6 B=1 C=1

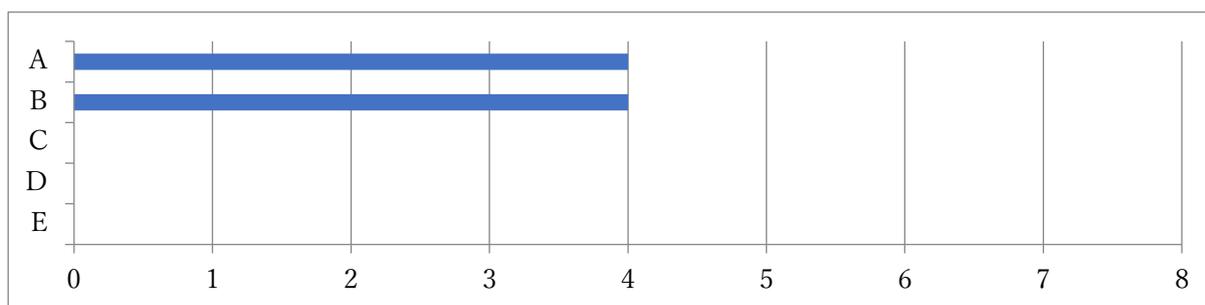


具体的な取組内容

- ・ 読書旬間には読み聞かせボランティアの方々に多く参加をいただいています。
- ・ 図書授業時に司書による読み聞かせやブックトーク等を行い、図書への興味を促しています。
- ・ 学期毎に読書週間を実施しています。
- ・ 読書記録カードを活用し、目標を達成する中で、スタンプやシール、賞状を作成し表彰を行うなど楽しく取り組めるようにしています。
- ・ 学級文庫を学期ごとに変えています。
- ・ 朝読書や読書週間、貸出強化週間、夏・冬休みの長期貸出の設定を含めた時間の確保を進めています。
- ・ 朝読書を教育課程に位置付けて全学年で実施しています。

- ⑧ 学校においては、各教科・特別活動・総合的な学習の時間などにおいて、学校図書室を積極的・計画的に利用し、子どもの主体的・意欲的な読書活動や学習活動を充実させます。また、読み聞かせ等のボランティア派遣を積極的にすすめます。

評価 A=4 B=4



具体的な取組内容

- ・ 国語・社会・総合の授業の調べ学習の資料などを図書室で用意しています。
- ・ 図書委員会だより、ポップ作り、帯づくり、1～4年生の各学級に行つての読み聞かせも行っています。
- ・ 一学期末から夏休み中の開放日に、調べる学習コンクールについて指導を個別に実施しています。
- ・ 瑞穂町図書館の配送システムが開始したことにより、図書資料活用に弾みがついたので、これからも積極的に担任とコンタクトしていきます。
- ・ 学校図書館を積極的、計画的に利用しています。

- ・ 調べ学習に関心、興味をもてるよう、活用できそうな本の紹介や、校外学習の前後で関連のある本の紹介をしました。
- ・ 読書・学習・情報センターとしての学習の中心的、主体的な役割としての機能となるよう、資料の充実を図っています。

上記以外に行っている取組

- ・ 分類とその項目・書架の場所も意識させるよう、いろいろな分類の本を読み聞かせています。
- ・ 保護者を対象に図書ボランティアを募り、月1～2回本の修理や図書室の装飾、児童の読書活動を行うための環境づくりに協力してもらっています。
- ・ 学校HPに図書室の様子を知らせるサイト作成しています。
- ・ 瑞穂町図書館を使った調べる学習コンクールに多くの作品を出品できました。
- ・ 「小学生が選ぶ！子どもの本総選挙」「お気に入りの一冊をあなたへー読書推薦文コンクール」等、学校外のイベントにも機会に応じて参加している。
- ・ 地域資料として瑞穂町の記事の新聞を切り抜いています。
- ・ SLA(全国学校図書館協議会)やNIE(教育に新聞を)の研修に参加しています。

2 図書館

- ① 子ども個人の興味や関心・発達段階に合わせた選書を行い、蔵書の充実を図ります。

評価 B

- ・ 子どもの興味関心に合わせて選書を行いました。人気がある本は地域図書室にも副本を揃えました。

- ② 図書館における「おはなしの会」の内容を充実させ、手法の研究をし、ボランティアの協力を得ながら、より多くの方に参加してもらえよう事業を目指します。

評価 A

- ・ 図書館、各地域図書室で毎月実施し、本の楽しさを広めると共に読書の習慣付けを促進しました。また、令和5年10月から乳幼児向けの読み聞かせを開始しました。

- ③ 学校における「読み聞かせ」の支援や学校への団体貸出など、学校との連携を充実させます。

評価 A

- ・ 大人数での読み聞かせに使える大型絵本やパネルシアターの蔵書を充実し、誰もが手に取れるように配架しました。また、授業や学校行事に必要な資料は、積極的に収集しています。令和5年度からは、学校への団体貸出資料を届ける配送サービスを開始しました。

- ④ 保健センターにおける育児相談時に実施している就学前の子どもを対象とした「読み聞かせ」では、子どもたちの発達に応じた選書に力を入れます。また、保護者が子育て

てを楽しめるような絵本を選書・紹介し、0歳児でも図書館を利用でき、絵本が親子のコミュニケーションのツールになることを啓発していきます。

評価 B

- ・ 保健センターの育児相談時に絵本を持参し、読み聞かせを行っています。保健センターに持っていく本は、年齢を考慮して選書しています。乳児向けの本のリストや、図書館利用案内を持参し、利用を呼びかけています。
- ⑤ 保健センターで図書館を紹介するツールの随時見直しと効果的な配布方法を検討します。

評価 A

- ・ ブックスタート時に配布する赤ちゃん向けの絵本を紹介するリーフレットの選書を見直し、書店等で手に入りやすいものにしました。
- ⑥ 乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」の効果的な活用方法を検討します。

評価 A

- ・ 乳幼児とその親を対象とした読書手帳「本の思い出」に興味を持ってもらうため、デザインを町の公式キャラクター「みずほまる」デザインに変更しました。
- ⑦ 春の子どもの読書週間と秋の読書週間に、ホームページも活用しながら小学生・中学生向けの良書案内を行い、選書を充実させます。

評価 A

- ・ 春と秋に良書案内を作成し、配布しています。掲載する本新刊から長く読み継がれているものまで、幅広く選書しています。選書は複数の司書で行い、特定の分野に偏らないように心がけています。
- ⑧ ヤングアダルト（おおむね小学校高学年から高校生）向けの蔵書を積極的に収集し、子どもたちへ読書の楽しさを啓発します。

評価 A

- ・ 小学校高学年から楽しめるような資料を積極的に購入しています。また新しくなった図書館にはティーンズエリアを設け、必要な資料にアクセスしやすくしました。
- ⑨ 読書講演会のほか、子どもの読書に関わる大人向けの事業の企画を行います。

評価 C

- ・ 図書館講座を年2回開催しています。その他に、無料配布、企画展示の充実や、企業と連携した企画も行っています。
- ⑩ 調べ学習について、資料の充実とともに、職員が調べ学習の方法を研究し、より多くの子どもたちの疑問が解消できるように努めます。

評価 A

- ・ 調べる学習の研修を受講し、選書だけでなく、調べ方やまとめる方法についても研究しました。その成果を活かし、学校で生徒向けの講座を実施しました。

- ⑪ 図書館を使った調べる学習コンクール（地域コンクール）を継続し、興味を持ったことに対し、自ら調べ、まとめ、発表することを通して、課題解決力を育成します。

評価 A

- ・ 図書館を使った調べる学習コンクールを毎年開催し、入賞者の水準は年々上がっています。令和5年からは小中学生の応募者に対し、作品返却時にフィードバックを目的としたコメントを添付しています。

- ⑫ 図書館の利用をさらに促進するため、子ども・保護者に対する広報及び相談活動を充実していきます。

評価 A

- ・ 広報みずほやみずほニュースで図書館や地域図書室を紹介しました。またマスコミを積極的に活用し、新聞等の掲載記事を読んだ方の来館につながりました。特に瑞穂町図書館のリニューアルに伴う3つの受賞は多くの来館者に繋がりました。図書館ホームページや町から配信されるメール、町施設などへのポスターの掲示などにより、図書館事業を広報しています。

- ⑬ 障がいのある子どもに対する支援として、点字資料、さわる絵本をはじめとしたバリアフリー資料を整備します。

評価 B

- ・ 点字付き絵本やLLブックなどのバリアフリー資料を収集しました。

- ⑭ 子ども向けホームページの作成に向けて研究します。

評価 B

- ・ 既存の子ども向けページを充実しました。

- ⑮ 小学生の生活科見学や中学生の職場体験などを積極的に受け入れ、子どもが図書館を見学、体験する機会をさらに拡充していきます。

評価 A

- ・ 中学生のボランティア部や職場体験及び図書館・地域図書室の見学を積極的に受け入れました。夏の体験ボランティアでは高校生のボランティアも受け入れました。

- ⑯ 地域の読書活動に関わる情報拠点としての機能を充実していきます。

評価 B

- ・ 図書館のホームページメール、SNS 配信を利用しながら図書館講座や様々なイベント情報を発信しています。

⑰ 読書への意欲を高め、読書に親しめる方策として、読書手帳を活用します。

評価 A

- ・ 既存の読書手帳のデザインを町の公式キャラクター「みずほまる」デザインに変更した結果、配布数が伸びました。

⑱ 図書館のリサイクル図書の再活用は、保育園、幼稚園、小・中学校等を優先して行います。

評価 A

- ・ リサイクル図書を一般に無料配布する前に、保育園、幼稚園、小・中学校やボランティア団体に優先して配布しています。

⑲ 図書館のお薦めコーナーを充実させ、読書喚起します。

評価 A

- ・ 季節や月間・週間行事に合わせた企画展示を行っています。

⑳ 子どもの利用を促進するためのスペースを確保します。

評価 A

- ・ 新しくなった図書館では子どもを乳幼児から中高生までが利用できるエリアを複数設置し、目的に応じた使い方ができるようになりました。

㉑ 乳幼児期から高校生までの子どもが気軽に本に親しめるよう、改修事業を推進します。

評価 A

- ・ 新しくなった図書館では本の配架（並べ方）にテーマ配架を導入し、図書館を利用したことがない子どもでも本を見つけやすくする工夫をしています。

㉒ デジタル化した地域資料の効果的な活用手法を検討し、地域を愛する機運の醸成に繋がります。

評価 B

- ・ みずほ☆探検アプリの新しいコースを設定しました。

㉓ 外国語を母語とする子どもの読書活動を支援するため、英語資料を中心に、地域の実情に合わせた外国語資料を収集します。

評価 A

- ・ 市販されている英語資料のほか、在日米軍横田基地から寄贈された洋書を受け入れ、蔵書の充実を図りました。

㉔ 令和2年の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を踏まえ、子どもがオリンピックの歴史や意義等に興味・関心を持ち、知識を得られるように配慮

して選書を行います。子ども個人の興味や関心・発達段階に合わせた選書を行い、蔵書の充実を図ります。

評価 C

- ・ オリンピック・パラリンピック関連の資料を収集しました。また、各種競技や世界各国のことが調べられる資料も収集しました。

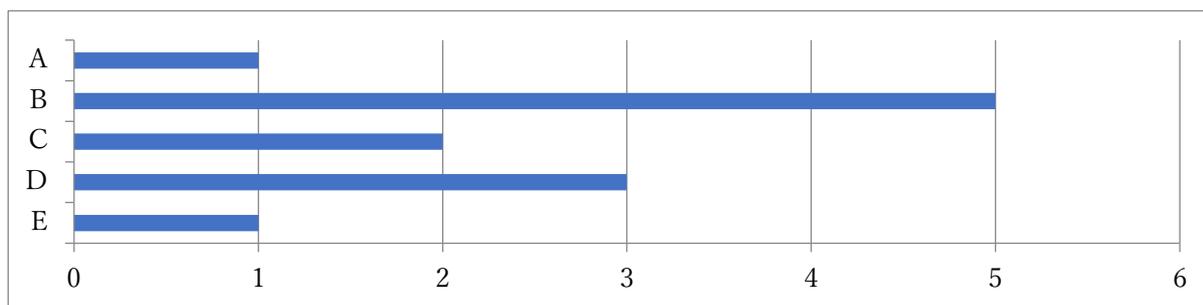
上記以外に行っている取組

- ・ 子ども用の視聴覚資料（CD、DVD）を収集しています。
- ・ 子どもが簡単に蔵書を検索できるように、蔵書検索機に子ども向け表示にする機能を備えています。
- ・ 瑞穂町図書館ファンクラブと協働し、子ども向けのイベントを実施しています。

3 幼稚園・保育園（12 園）

- ① 保護者に対して読書への理解を深めるため、「園だより」などを通して読み聞かせの啓発に努めます。

評価 A=1 B=5 C=2 D=3 E=1

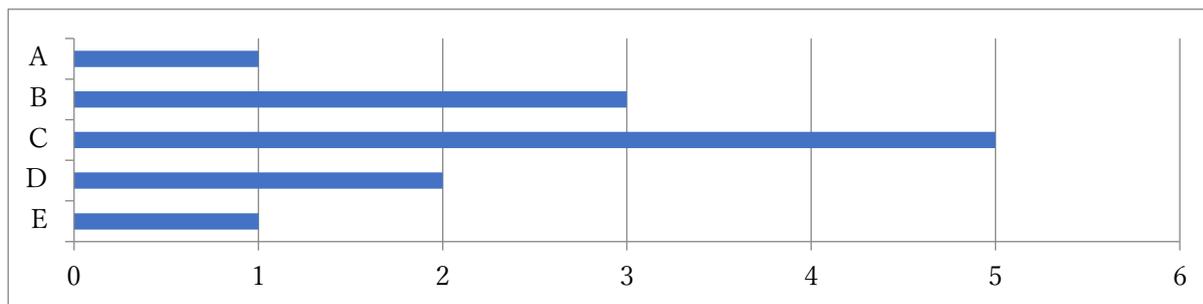


具体的な取組内容

- ・ 園だよりやクラス便りで、親子の読み聞かせの素晴らしさや効果、選書の仕方などを伝えています。
- ・ お薦めする図書や子どもたちのお気に入り絵本を紹介しています。
- ・ 園内に図書館を設け読み聞かせに力を入れるほか、家庭への貸出しも行っています。

- ② 図書館のリサイクル図書の有効活用を積極的に行い、読書環境の整備に努めます。

評価 A=1 B=3 C=5 D=2 E=1

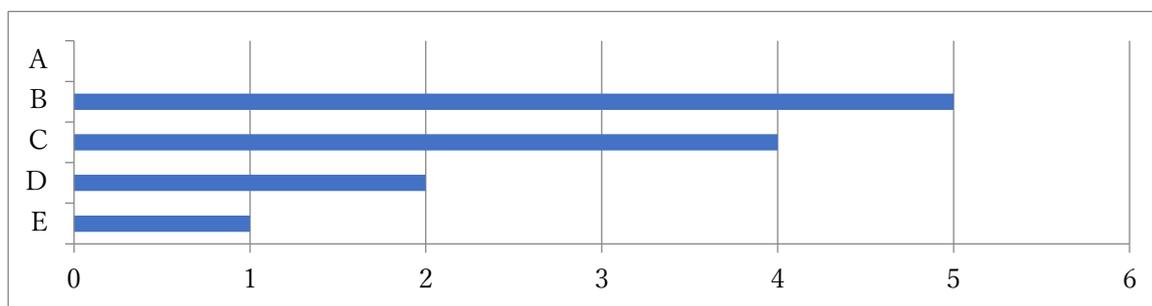


具体的な取組内容

- ・ 子どもが自由に読めるように読書コーナーを設置しています。
- ・ 図書館と連携を図り、リサイクル図書の頒布に毎年参加しています。
- ・ 自園にも図書館があり本がたくさんあるので、リサイクル図書は活用していません。
- ・ 図書館のリサイクル本は特に人気本が多く、園で買い足したり、年齢に合わせて、誕生日プレゼントとして全園児に揃えたりしています。

③ 図書館からの「幼児向け良書案内」を活用するなど、図書館と連携を充実していきます。

評価 A=0 B=5 C=4 D=2 E=1



具体的な取組内容

- ・ 図書委員が中心となつての絵本の管理、絵本情報の発信をしています。
- ・ 掲載してある図書で本園にあるものは、貸し出ししやすい所に置いてある。
- ・ 案内が届くと保護者に伝え、園内にある場合は皆に公表しています。また、購入する際の参考にしています。

上記以外に行っている取組

- ・ 園内の図書の中から、季節に合わせた絵本の読み聞かせを中心に行っています。
- ・ 言葉に興味を示せるように、絵本や紙芝居の仕方などを工夫し、楽しさを知らせていくとともに、絵本や紙芝居を大切にす気持ち育てています。
- ・ 職員が読みきかせた本をきっかけに、子どもたちの「自分で」持ち、見る、文字を読んてみようとする動きに繋がっています。
- ・ 町の読み聞かせ推進事業で購入したものを活用して、保育士が読み聞かせを行い、また子ども自身が触れられるようにしています。
- ・ 少しの空き時間でも、子供達が自由に好きな本を見られるようにしてあります。

4 児童館・学童保育クラブ

① 幼児と保護者向けの事業を引き続き行う中で、読み聞かせを充実させます。

評価 A=1 C=1

- ・ 幼児と保護者向けの「幼児事業」では、日常的に読み聞かせ等を実施し、月齢に合せたお薦めの絵本を紹介しています。
- ・ 定期的に送られてくる絵本の紹介冊子を配布しています。

② 図書館のリサイクル図書の有効活用を積極的に行い、読書環境の整備に努めます。

評価 A=1 C=1

- ・ 「図書室及び幼児室」の本棚に並べ手に取りやすくするなど、読書環境の整備に努めています。

上記以外に行っている取組

- ・ 季節や時事に合わせて、本や雑誌が目立つように「ポップアップ」することにより、来館者の目につきやすくなるよう工夫しています。
- ・ 学童の生活の中で「本読みの時間」を設定しています。
- ・ 毎年本を購入しています。

5 保健センター

① 乳児（3～4 か月）健診時に来所したすべての乳児を対象に絵本を配布し、読み聞かせのデモンストレーションを実施するなど、ブックスタート事業を推進します。同時に、乳幼児向けの読書手帳「本の思い出」を配付します。

評価 C

- ・ ブックスタート事業として絵本を2冊、読書手帳「本の思い出」と図書館のリーフレットを配布しています。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の流行以前は、当該健康診査に来所した母子へボランティアセンターに登録のボランティアが読み聞かせ推進のための声掛けを行っていたが、現在は実施していません。再開に向けボランティアセンターと調整中です。

② 図書館と連携して、リサイクル図書を活用し本を備え、ブックスタートのパンフレット配布や、健康・育児・栄養相談時に、図書館職員が読み聞かせを行うなどの事業を実施していきます。

評価 C

- ・ 来所した親子が健康診査や手続き等の待ち時間に読書ができるよう、ホールに絵本を設置しています。
- ・ 図書館からのリサイクル図書のほか、住民の寄付でいただいている本も利用しています。
- ・ 健康・育児・栄養相談時に来所したお子さんに対し、月1回、図書館職員が読み聞かせを実施しています。

6 子ども家庭支援センターひばり

① 保護者交流事業やボランティアによる読み聞かせ事業を実施していきます。

評価 B

- ・ 乳幼児対象の読み聞かせ事業「おはなし はじまるよ」を実施し、乳幼児とその保護者が読み聞かせの方法を学ぶ機会を作っています。

② 図書館のリサイクル図書を活用し、図書コーナーを充実させます。

評価 A

- ・ 図書館の協力を得て、図書コーナーを充実させることができました。

7 ボランティアセンターみずほ

① 地域の育児サークルなどが行っている「読み聞かせ」などの活動への参加を促進します。

評価 A

- ・ ボランティア団体が読み聞かせを実施しています。
- ・ 子育てサロンで絵本の読み聞かせを実施しています。
- ・ 小学校と連携し、学期ごとに放送設備を使用しラジオのような形でボランティアが読み聞かせを実施しています。

② 育児サークルやその活動内容の情報を提供します。

評価 A

- ・ ボランティア通信で、読み聞かせの様子を伝えています。

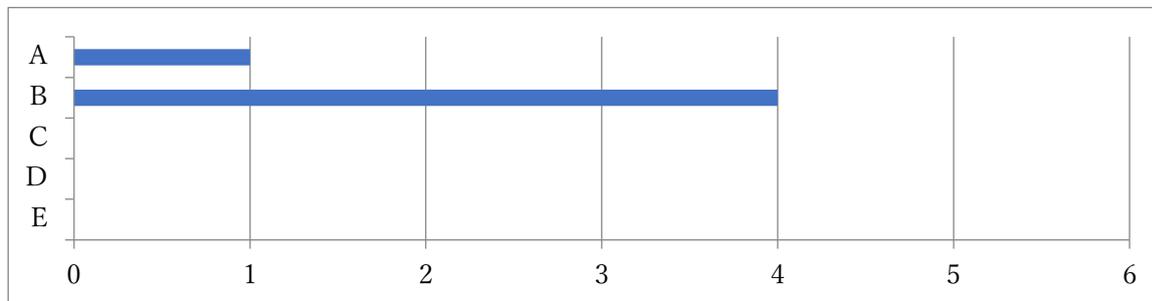
上記以外に行っている取組

- ・ 地域の住民からの寄付や、図書館からのリサイクル図書を箱根ヶ崎駅に設置した本棚で貸出ししています。
- ・ 夏の体験ボランティアで読書で使用する栞を手作りし、図書館やJR箱根ヶ崎駅の本棚に設置しました。

8 地域

① 子どもたちの興味をお話に向けさせるように読み聞かせを積極的に取り入れた活動をします。

評価 A=1 B=4



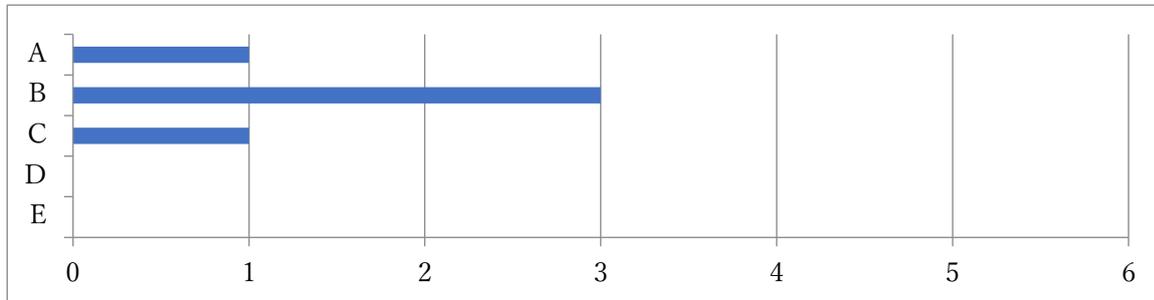
- ・ 定期的におはなし会を実施しています。
- ・ 各学校の朝読書で読み聞かせを実施しています。
- ・ 高学年の児童に興味をもってもらえるような本を選んでいきます。
- ・ 春休みの国際アンデルセン子どもの本の日にちなみ、図書館で読み聞かせを実施しま

した。

- ・ 季節の絵本や活動の導入に合う絵本を読むようにしています。

② 図書館から読み聞かせに適した本等の団体貸出の利用を促進します。

評価 A=1 B=3 C=1



- ・ 小さい子への読み聞かせに大型絵本を活用しています。
- ・ 練習期間も含めると本を長く借りる必要があるので助かっています。
- ・ おすすめの本などを取り入れ、読み聞かせの活動に取り組みました。

上記以外の取組み

- ・ 小学校、放課後子ども教室で読み聞かせを実施しています。
- ・ 子ども食堂に、読み聞かせコーナーとして参加しています。

子どもの読書活動調査

調査期間 令和6年6月10日（火）～令和6年7月1日（月）

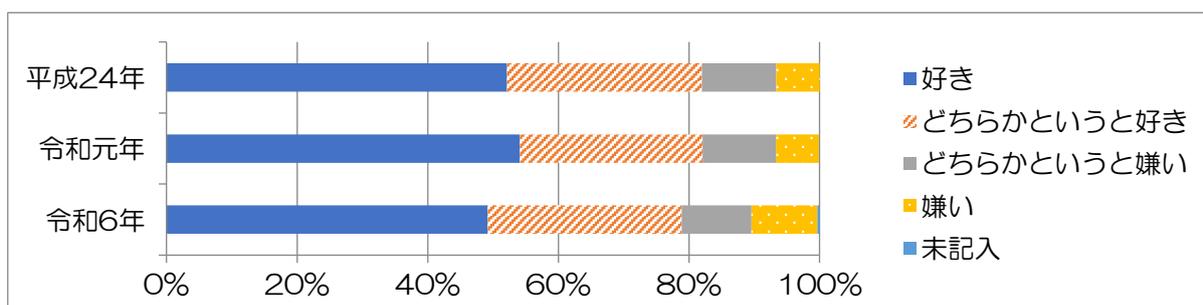
対象 瑞穂町内の小学校児童（1,421人）・中学校生徒（739人） 合計 2,160人

回答率 小学生 93.1% 中学生 83.9% 全体 90.0%

①本を読むことが好きですか（マンガをのぞく）

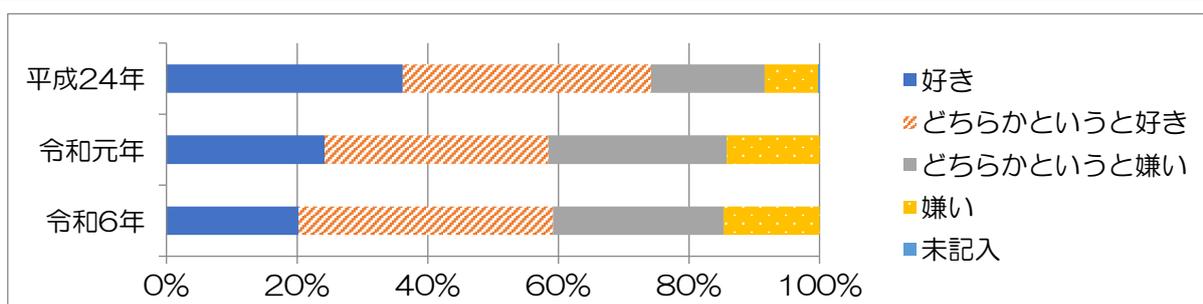
小学生

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
好き	963人	52.1%	807人	54.1%	651人	49.2%
どちらかという人喜欢	551人	29.8%	418人	28.0%	393人	29.7%
どちらかというと嫌い	211人	11.4%	167人	11.2%	141人	10.7%
嫌い	122人	6.6%	98人	6.6%	134人	10.1%
未記入	0人	0.0%	2人	0.1%	4人	0.3%
計	1,847人	100%	1,492人	100%	1,323人	100%



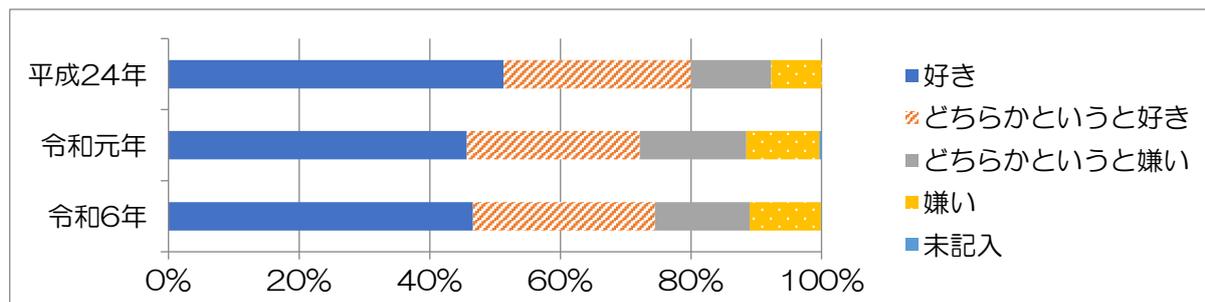
中学生

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
好き	327人	36.2%	191人	24.2%	125人	20.2%
どちらかという人喜欢	344人	38.1%	270人	34.3%	242人	39.0%
どちらかというと嫌い	157人	17.4%	215人	27.3%	162人	26.1%
嫌い	74人	8.2%	112人	14.2%	91人	14.7%
未記入	2人	0.2%	0人	0.0%	0人	0.0%
計	904人	100%	835人	100%	620人	100%



②読み聞かせ（本を読んでもらうこと）は好きですか。（小学生のみ対象）

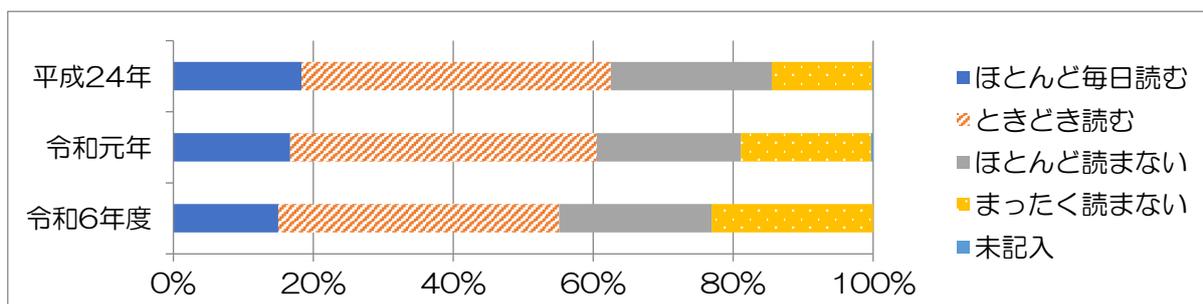
回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
好き	947人	51.3%	682人	45.7%	617人	46.6%
どちらかという好き	530人	28.7%	395人	26.5%	369人	27.9%
どちらかという嫌い	227人	12.3%	243人	16.3%	192人	14.5%
嫌い	143人	7.7%	168人	11.2%	144人	10.9%
未記入	0人	0.0%	4人	0.3%	1人	0.1%
計	1,847人	100%	1,492人	100%	1,323人	100%



③家ではどのくらい本を読みますか。

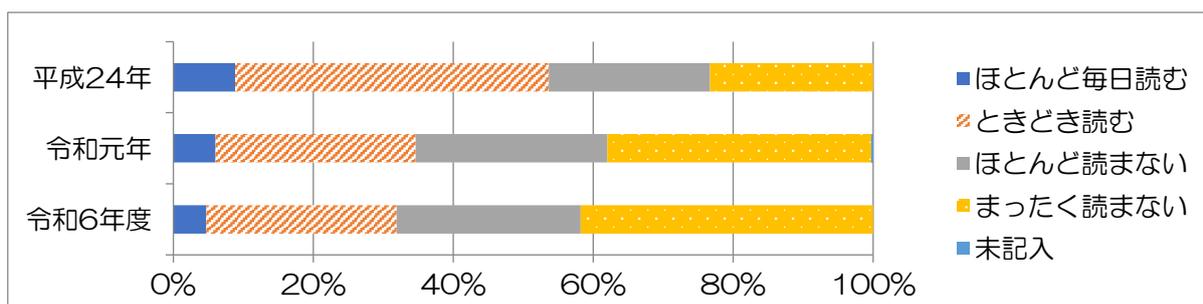
小学生

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
ほとんど毎日読む	338人	18.3%	250人	16.7%	198人	15.0%
ときどき読む	818人	44.3%	653人	43.8%	531人	40.1%
ほとんど読まない	424人	23.0%	307人	20.6%	288人	21.8%
まったく読まない	266人	14.4%	277人	18.6%	306人	23.1%
未記入	1人	0.1%	5人	0.3%	0人	0.0%
計	1,847人	100%	1,492人	100%	1,323人	100%



中学生

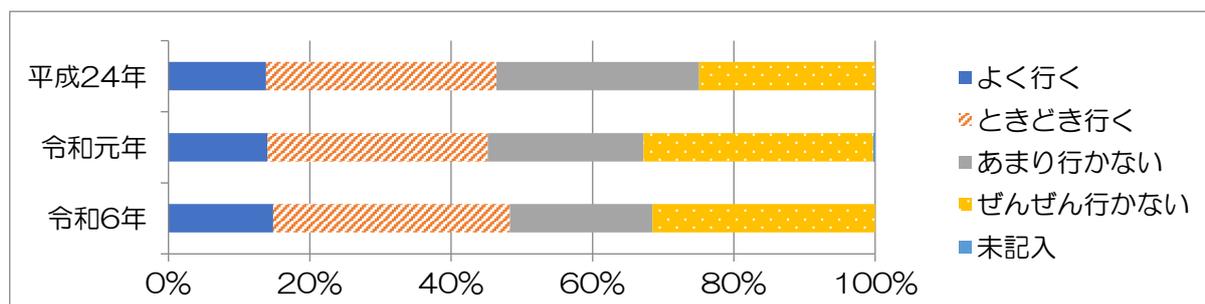
回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
ほとんど毎日読む	80人	8.8%	47人	6.0%	29人	4.7%
ときどき読む	405人	44.8%	225人	28.6%	169人	27.2%
ほとんど読まない	208人	23.0%	216人	27.4%	163人	26.3%
まったく読まない	211人	23.3%	298人	37.8%	259人	41.8%
未記入	0人	0.0%	2人	0.2%	0人	0.0%
計	904人	100%	788人	100%	620人	100%



④町の図書館、地域図書室へ行きますか。(学校の図書室は除きます)

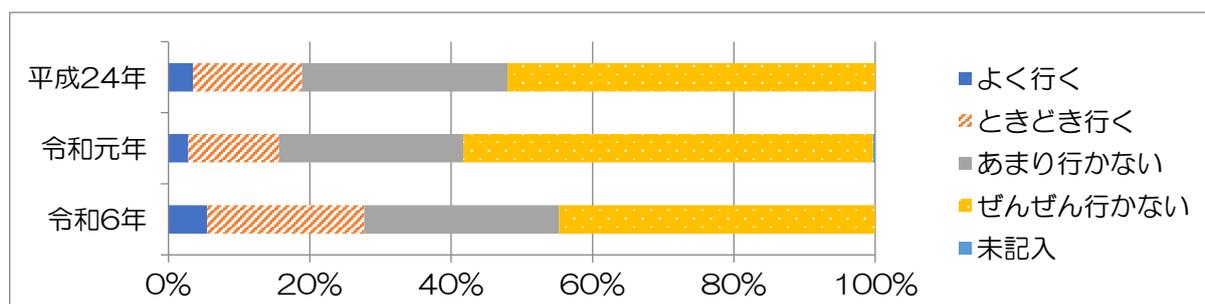
小学生

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
よく行く	254人	13.8%	209人	14.0%	198人	15.0%
ときどき行く	603人	32.6%	466人	31.2%	531人	40.1%
あまり行かない	531人	28.7%	328人	22.0%	288人	21.8%
ぜんぜん行かない	459人	24.9%	484人	32.5%	306人	23.1%
未記入	0人	0.0%	5人	0.3%	0人	0.0%
計	1,847人	100%	1,492人	100%	1,323人	100%



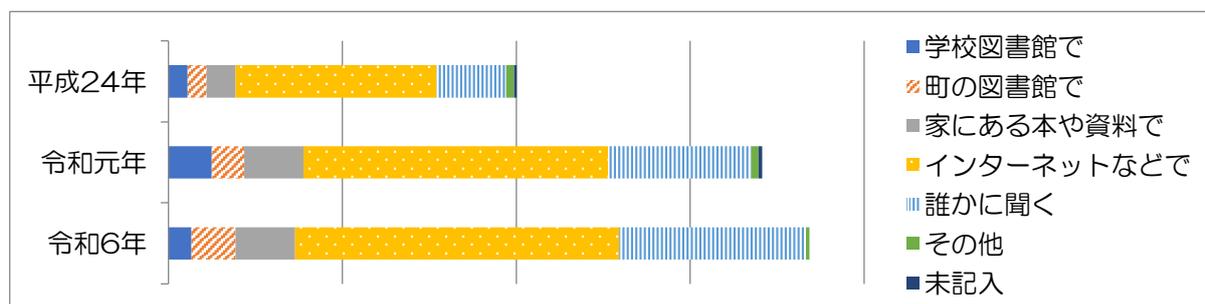
中学生

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
よく行く	32人	3.5%	22人	2.8%	34人	5.5%
ときどき行く	139人	15.4%	102人	12.9%	138人	22.2%
あまり行かない	263人	29.1%	205人	26.0%	171人	27.6%
ぜんぜん行かない	470人	52.0%	457人	58.0%	277人	44.7%
未記入	0人	0.0%	2人	0.3%	0人	0.0%
計	904人	100%	788人	100%	620人	100%



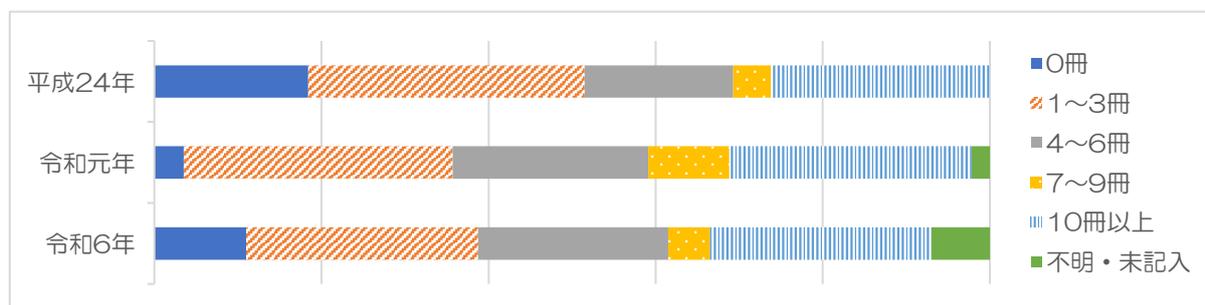
⑤調べたいことがあるときは、どのように調べますか。複数回答可（中学生のみ対象）

回答項目	H24	割合	R1	割合	R6	割合
学校図書館で	70人	5.5%	98人	12.4%	41人	6.6%
町の図書館で	70人	5.5%	74人	9.4%	79人	12.7%
家にある本や資料で	106人	8.3%	134人	17.0%	106人	17.1%
インターネットなどで	741人	57.8%	690人	87.6%	578人	93.2%
誰かに聞く	257人	20.0%	324人	41.1%	333人	53.7%
その他	30人	2.3%	17人	2.2%	6人	1.0%
未記入	9人	0.7%	8人	1.0%	0人	0.0%



⑥1週間に読んだ本の数（冊数）は。（マンガをのぞく） 小学1～2年生

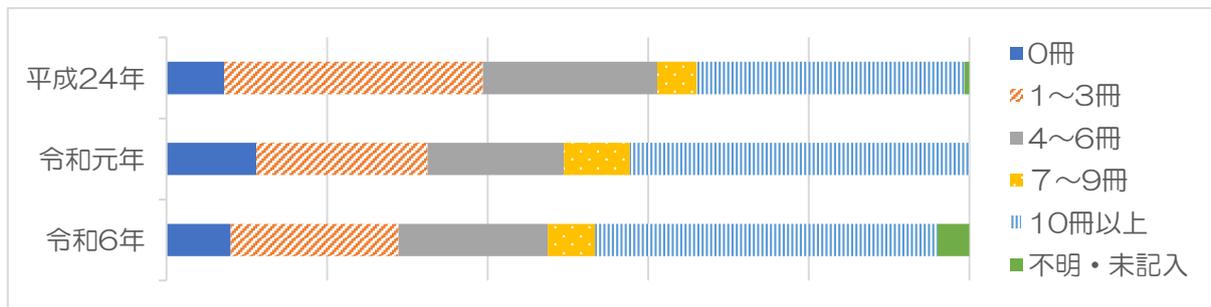
	H24	割合	R1	割合	R6	割合
0	89人	18.4%	21人	3.5%	44人	11.0%
1～3	160人	33.1%	195人	32.2%	111人	27.75%
4～6	86人	17.8%	142人	23.4%	91人	22.75%
7～9	22人	4.5%	59人	9.7%	20人	5.0%
10冊以上	127人	26.2%	176人	29.0%	106人	26.5%
不明・未記入	0人	0.0%	13人	2.2%	28人	7.0%
計	484人	100.0%	606人	100.0%	400人	100.0%



⑦1カ月に読んだ本の数（冊数）は。（マンガをのぞく）

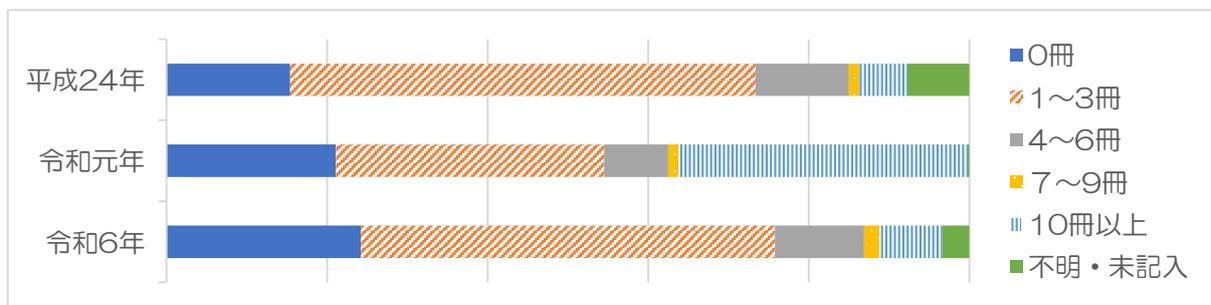
小学3～6年生

冊数	H24	割合	R1	割合	R6	割合
0	88人	7.1%	113人	11.2%	74人	8.0%
1～3	396人	31.9%	215人	21.3%	193人	20.9%
4～6	267人	21.5%	171人	17.0%	172人	18.6%
7～9	61人	4.9%	83人	8.2%	54人	5.9%
10冊以上	409人	33.0%	426人	42.3%	393人	42.6%
不明・未記入	20人	0.6%	0人	0.0%	37人	4.0%
計	1,241人	100.0%	1,008人	100.0%	923人	100.0%



中学生

冊数	H24	割合	R1	割合	R6	割合
0	139人	15.4%	166人	21.1%	150人	24.2%
1～3	524人	58.0%	263人	33.4%	320人	51.6%
4～6	105人	11.6%	63人	8.0%	69人	11.1%
7～9	12人	1.3%	10人	1.3%	12人	1.9%
10冊以上	54人	6.0%	284人	36.0%	48人	7.8%
不明・未記入	70人	7.7%	2人	0.2%	21人	3.4%
計	904人	100.0%	788人	100.0%	620人	100.0%



第四次瑞穂町子ども読書活動推進計画

令和7年2月

発行：瑞穂町教育委員会

〒190-1211

東京都西多摩郡瑞穂町大字石畑 1962 番地

TEL：042-557-5614

FAX：042-557-6156

URL <https://www.library.mizuho.tokyo.jp>

企画・編集：教育部図書館